

山口県立山口図書館開設 120 周年・建築 50 周年記念
「見る・聴く・考える 山口県の図書館建築」講演資料 1



第2部 講演 二代目山口図書館と春日山周辺の近代建築群

昭和3(1928)年に建設された二代目山口図書館は、今年で築95年。

一の坂川そばに建っていた初代図書館は、なぜ春日山麓へ移されたのか…。

「御大典記念」でなく、なぜ「行啓記念図書館」なのか…。

隣接する「防長先賢堂」との関連は何か…。

外壁の意匠は何を意味するのか…。

図書館としての先進性はどこにあったのか…。

それらの謎を建築士の視点から考察すると共に、現存する旧図書館ほか春日山周辺の近代建築群の活用の可能性を探る。

講師：原田正彦 氏

1954年吉敷郡小郡町生まれ。1978年京都大学大学院工学修士建築学専攻卒業後、山口県庁建築技術職員として36年間奉職。現在(一財)山口県建築住宅センター勤務。

一級建築士、山口県ヘリテージマネージャー、(一社)山口県建築士会副会長、NPO まちのよそおいネットワーク理事長、山口近代建築研究会代表。

現在、山口新聞に「やまぐち近代建築ノート」連載中。KRY山口放送局「さわやかモーニング～山口近代建築探訪」に建築ガイド役として出演中。

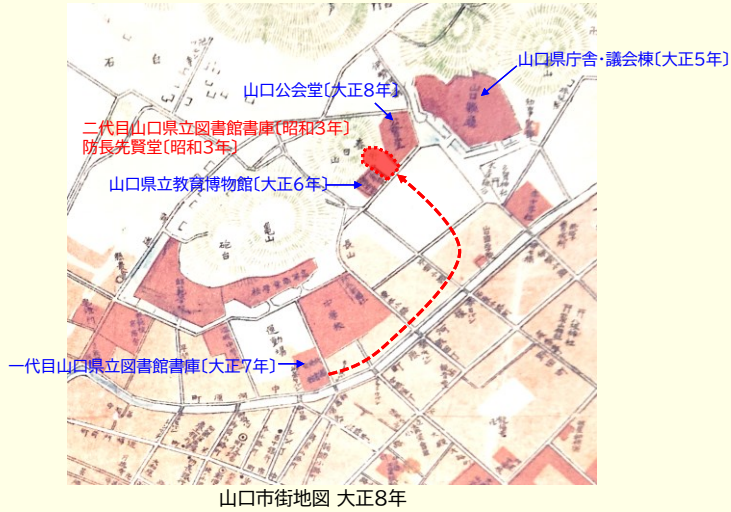


山口県立山口図書館開設120周年・建築50周年記念～見る・聴く・考える山口県の図書館建築
二代目山口図書館と春日山周辺の近代建築群
原田正彦(日本建築学会・山口県建築士会)

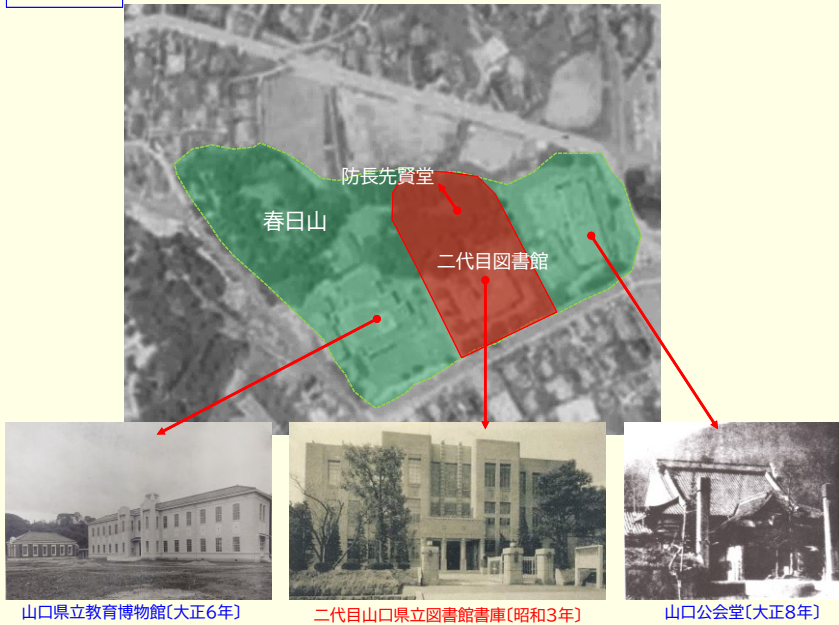


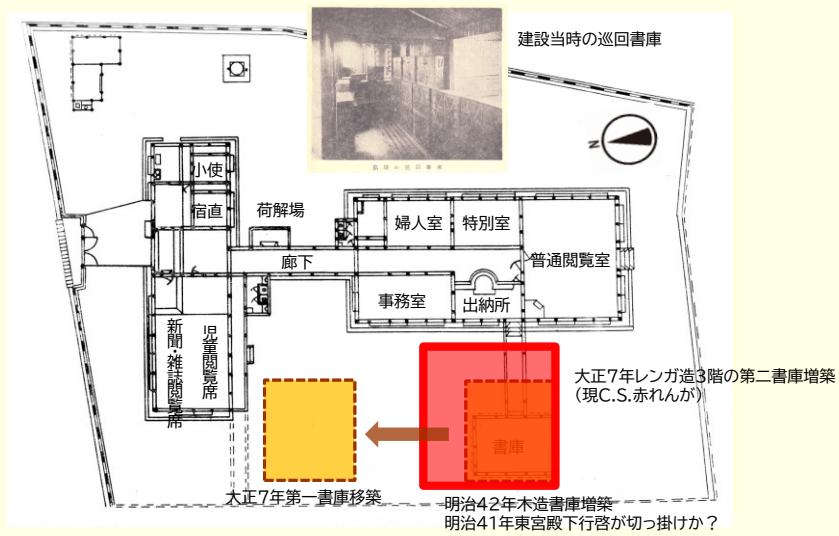
推察1 県都山口の都市づくりの一環

→県庁舎南の春日山東麓に公共施設群を配置
博物館、公会堂、そして二代目図書館で完成する



推察1 県都山口の都市づくりの一環





- ・ 創建時(1代目)の山口県立山口図書館。
明治36(1903)年、もと山口明倫館兵学寮跡地の中河原町に木造平屋建てで建てられた。
- ・ 当初巡回書庫は「荷解場」内。大正7年には、移築された「第一書庫」1階に。
- ・ 大正15年の東宮殿下行啓の際も、殿下は巡回書庫について「特に御目を注がれた」とある。



大正7(1918)年、西側に増築された3階建てレンガ書庫は1代目図書館移転後、山口県教育会館の倉庫に利用された。昭和57年教育会館も移転し、ポツンと残されていたが、10年に及び保存運動の結果残され、平成4年「クリエイティブ・スペース赤れんが」となった。平成10年国登録有形文化財。

ところが、歴史を深掘りすると…

西暦	和歴	出来事
1923年	大正12年 12月27日	虎の門事件 東宮殿下(後の昭和天皇)が、山口県周防村出身の難波大助から狙撃を受けた暗殺未遂事件
1924年	大正13年	1月7日 山本権兵衛内閣、事件の責任を取って総辞職 11月15日 難波の死刑執行(父作之進は翌年6月餓死) 9月21日 亀山山頂にて、大規模な「県民祈誓式」
1926年	大正15年 昭和元年	5月28～31日 東宮殿下山口県に行啓 29日山口図書館(一代目)、「巡回図書」に注目される 12月25日大正天皇崩御に伴い皇位継承、第124代天皇
1926年	昭和2年	「防長先賢堂」と「山口図書館」新築決定、設計を国に依頼 4月 国内務省復興局より木下潔が県土木課宮繕係着任 7月 鹿児島県立図書館視察 8月基本案を東京へ送る 11月木下広島県建築技師として転勤 12月31日 起工
1927年	昭和3年	1月23日 地鎮祭 大林組請負 11月10日 昭和天皇即位礼 12月20日 落成式

行啓記念

推察3 「行啓記念」の名のもと、2つの施設にはそれぞれの役割分担がなされていた

- 1) 東宮殿下に対し大不敬事件を起こした不埒な人物を、防長の地から出したことに対し、深謝すると共に、先賢の霊を鎮める → **防長先賢堂**
- 2) 昭和天皇の御大典を記念し、大正期の行啓先に図書館を選ばれたことに対する感謝のため→**二代目山口県立図書館**



防長先賢堂〔昭和3年〕
昭和3(1928)年建設。RC造平屋建て、瓦葺き、高床式校倉造りの外観。校木、斗拱、臺股、懸魚など伝統的木造の意匠が緻密に表現されている。

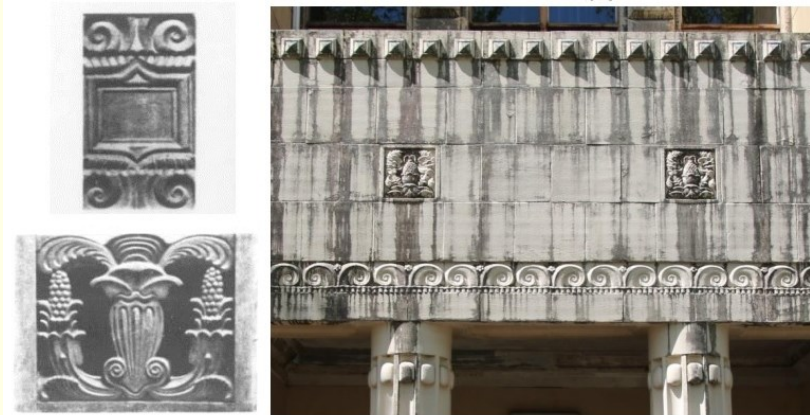


二代目山口県立図書館書庫〔昭和3年〕
徳山産御影石を混ぜた人造石仕上げのRC造3階建て。県有施設としては初のRC造と思われる。2階腰壁に並ぶ矩形の意匠はセセッション



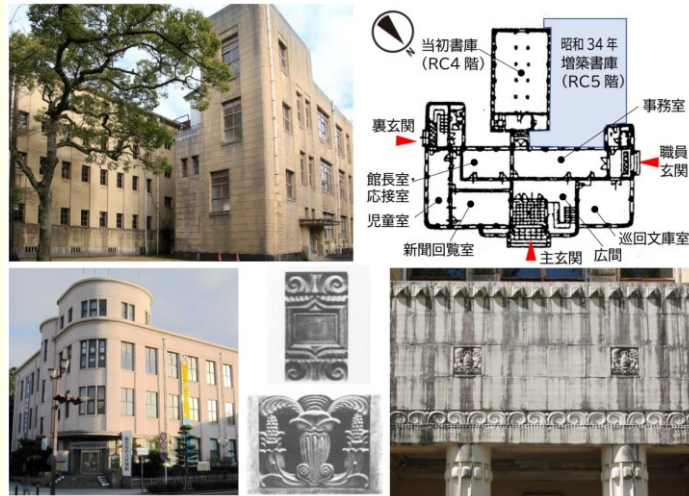
北東側外観。徳山産御影石を混ぜた人造石仕上げのRC造3階建て。県有施設としては初のRC造。2階腰壁に並ぶ矩形の意匠はセセッション。細部意匠は ज्याマン・セセッション。

総体の様式は「近世式(ज्याマンセセッション式)」とある



聞き慣れない用語だが、垂直性が意識された外観を言うのか…。より独特なのは、柱頭の卵型や正面庇壁の奇妙な植物、羊の角型の渦巻の意匠である。類似の画像を、大正期の建築写真集「**独逸近代建築彫刻**」(洪洋社/建築写真類聚 三期/大正10~13年)で確認した。つまりセセッションに、ドイツ的彫刻をはめ込んだ造型をこのように命名したのではないか。

ドイツ風を採用したのは、当時のこの国(ワイマール共和国1913~1933年)の科学、芸術、建築への憧れからではないか。(ただし、「建築」の表現主義やバウハウスに注目していない) 大正11(1922)年には、ドイツ生まれの理論物理学者アインシュタイン博士が来日し、大正皇后にも拝謁している。



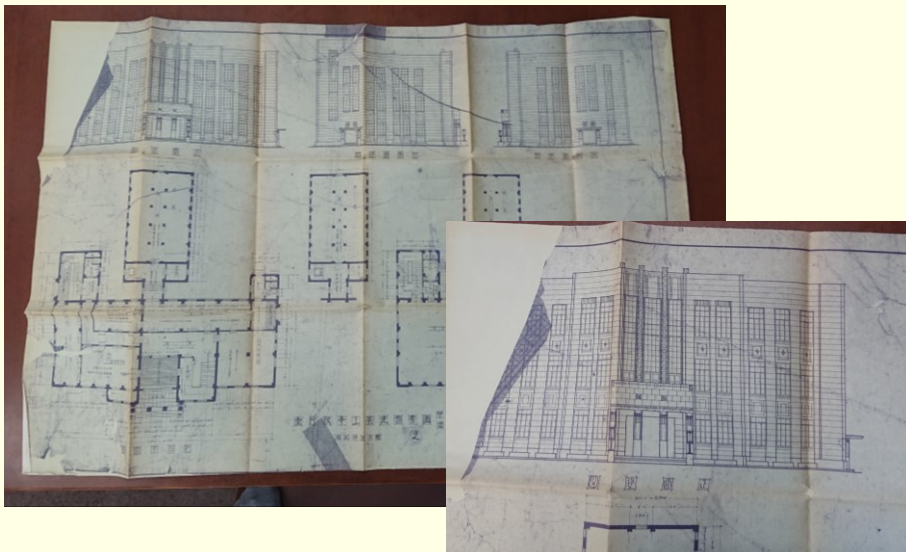
[上右]1階平面図。四方に玄関と書庫。2階は中央カウンターで、左右に男女別の閲覧室。3階は講堂と郷土史料室。(「山口県の近代化遺産」より加工)

[上左]南側外観。書庫は蔵書書棚を増やすためか、階高を低く調整した4階建て

[下右]正面玄関庇まわりに意匠が集中している

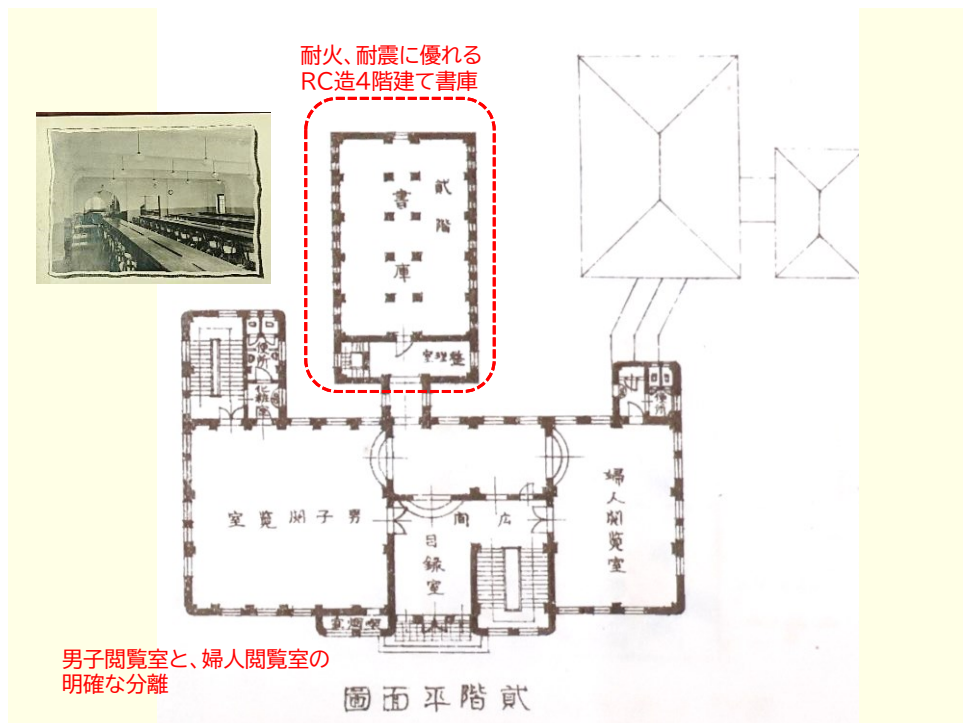
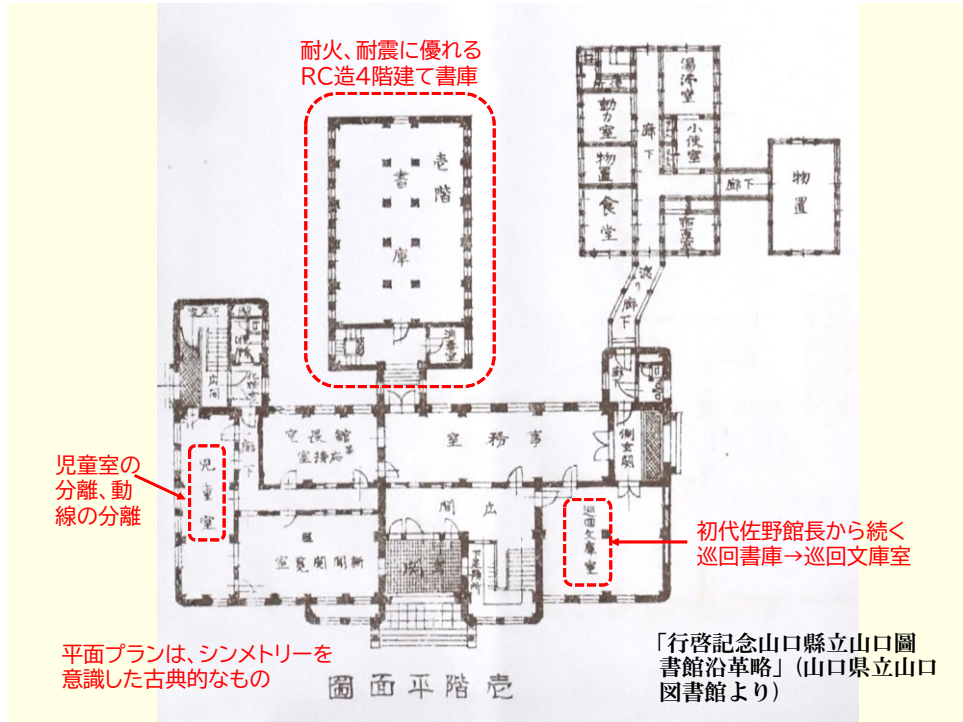
[下中]「建築写真類聚～独逸近代建築彫刻」(大正11、12年)の中に、類似の図像が見られる

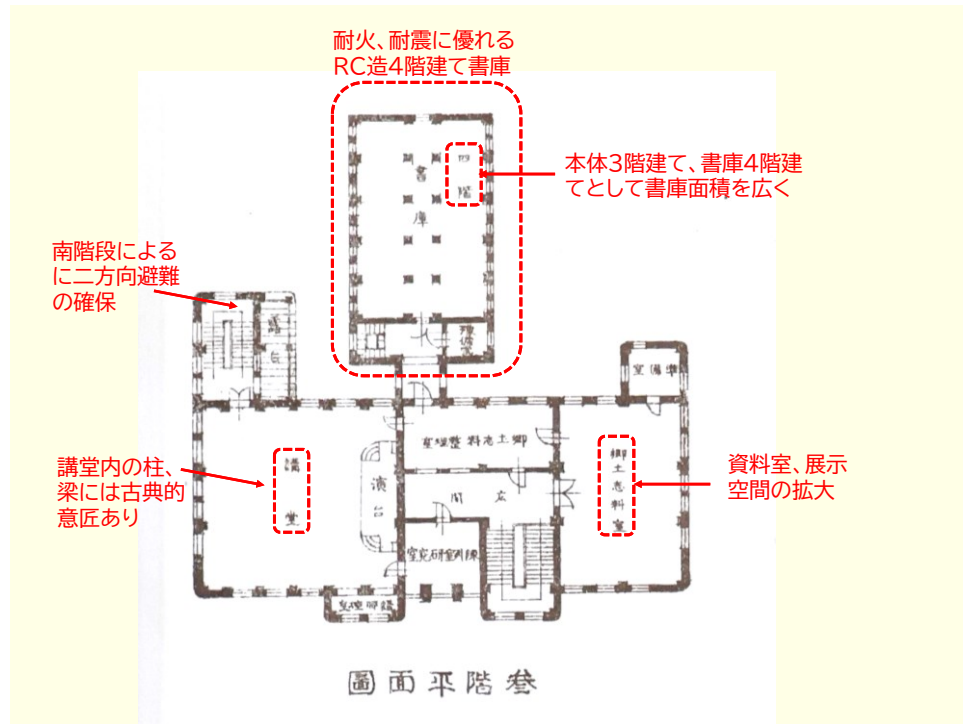
[下左]木下らが視察した鹿児島県立図書館(昭和2年、現存)は角地に建ち、外観はモダン。昭和56年以降、県立博物館として今も活用されている



山口県立文書館で調べると、設計概要他屋外整備図があった。

原図はないかと、先日山口県立図書館に問い合わせると、何と「行啓記念山口図書館原図」が2枚見つかった！昭和33年書庫増築のため、焼き直したものと思われる。





提言1 二代目図書館を「歴史博物館」に

提言2 春日山東山麓を「子供学習ゾーン」に

提言3 「山口エリア・リノベーション」の創造へ



▲エリア内の歴史的建造物のリノベーション・修復と活用

対象エリア内町並み・まちづくりの動き

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1. 山口県旧県庁舎保存運動(1976～1979年) | 16. 山口県旧県会議事堂保存改修工事(2006年) |
| 2. 旧野村酒場の再生活用(1980～1990年) | 17. 一の坂川周辺景観形成重点地区助成金交付(2005年) |
| 3. 赤レンガ(旧山口県立図書館書庫)保存運動(1982～1990年) | 18. 一の坂川河川再生事業(2005年～) |
| 4. 野田神社能舞台曳家移転(1991年) | 19. 山口市総合計画第5次実行計画に大内文化特定地域が位置づけ(2011年) |
| 5. 山口市ふるさと伝承総合センター(1991年) | 20. 重要文化財龍福寺本堂修復工事が完了(2011年) |
| 6. C.S.赤レンガ、リノベーションでオープン(1992年) | 21. 市営アパート解体後一の坂交通交流広場整備(2012年～2015年) |
| 7. サビエル記念聖堂の焼失と再建(1991～1998年) | 22. 第1回山口市都市景観賞(2016年～) |
| 8. 一の坂川マンション建設反対運動(1994～1995年) | 23. 十朋亭周辺活用事業展示館(2017年) |
| 9. 山口市住宅マスタープラン策定・推進事業(1995年～) | 24. 龜山山頂公園の整備(2019年) |
| 10. 「アートふる山口」の開催(1996～2016年第21回まで) | 25. 増える古カフェ、古民家レストラン(2019年～) |
| 11. NPO山口まちづくりセンターの設立(1998年～) | 26. 山口市文化財保存活用地域計画(2021年) |
| 12. 町家リノベーション1号オープン(2002年) | 27. 旧山口電信局舎活用事業「まわるわ」(2021年) |
| 13. NPO歴史の町山口を甦らせる会(2004年～) | 28. まちなみアート-my made 豎小路-(2021年) |
| 14. 菜香亭の移築再生(2004年) | 29. 山口市役所新庁舎建替計画発表(2022年) |
| 15. 山口市都市景観条例(2005年) | |